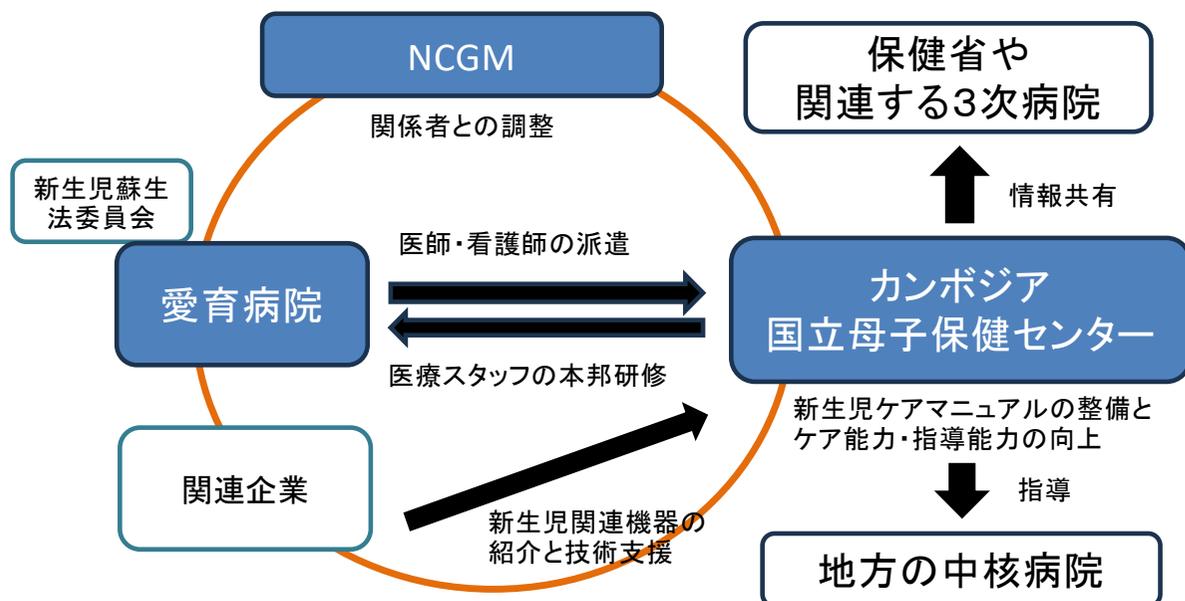


カンボジアにおける新生児医療サービス改善に向けた人材育成事業

- カンボジアでは、新生児死亡率は改善しているが、さらなる改善には、高度な集中治療を含めた新生児診療とケアの質の向上が必要である。
- NCGM国際協力局は、国立母子保健センター(NMCHC)とMOUを結んでおり、これまで長期間にわたって、看護師や医師の診療マニュアルの作成やマニュアルの実施支援等を行ってきたが、予算や医薬品、医療人材の不足から、未だ集中治療としての医療の質を確保できていない。そんな中、近年、病院経営が独立採算化した事で、収入を増やし、母子保健の医療サービスを拡充したいとのモメンタムがあり、NCGMへさらに質の高い、高度な新生児集中医療の実現へ向けて、支援要請があった。
- 当事業では、NCGMと愛育病院、新生児蘇生法委員会、新生児機器を扱う関連企業が連携し、NMCHC新生児室スタッフに対して、日本の優れた新生児集中治療の技術を伝達し、人材育成を行う。
- 当事業を通じて、NMCHCのハイリスク新生児のケアの改善を目的とすると共に、NMCHCは行政機能として下位の病院を指導する立場にあるため、整備された新生児医療サービスの地方中核病院への展開もスコープに入れている。



- ＜期待される成果＞
- NMCHCの新生児診療とケアの質向上
 - NMCHCでの新生児死亡の削減
 - 新生児診療・ケアマニュアルの整備
 - 新生児集中ケアの新人指導体制の整備
 - NMCHCによる地方中核病院への新生児集中医療の指導
 - 新生児関連製品の活用の向上
- ＜研修スケジュール予定＞
- 5、8、10月: 日本人が渡航し、現地スタッフを研修し、新生児マニュアルの整備を行う
 - 7、11月: 愛育病院で、現地スタッフの本邦研修を行う
 - 1月: 日本人が渡航し、地方中核病院のスタッフ向けの研修を支援する